

科目	プロセス系-1-A
----	-----------

受験番号 _____

氏名 _____

--

科目	プロセス系-1-A
----	-----------

--

※解答は、点線より下に記入すること。

(注：この用紙の問題への解答はこの面のみとし、裏面にはしないこと。)

問題 物質量 n の理想気体のエントロピー変化に関する以下の問いに答えよ。気体定数を R とし、定容（定積）比熱を C_V 、定圧比熱を C_P とし定数とする。式の導出においては以下の内部エネルギーの式を基にすること。

$$dU = -PdV + TdS$$

$$dU = \left(\frac{\partial U}{\partial V}\right)_T dV + \left(\frac{\partial U}{\partial T}\right)_V dT$$

(1) 温度 T が一定で体積が V_1 から V_2 に変化する場合のエントロピー変化 ΔS を導出せよ。なお、 $(\partial U/\partial V)_T = 0$ としてよい。

$$-PdV + TdS = \left(\frac{\partial U}{\partial V}\right)_T dV + \left(\frac{\partial U}{\partial T}\right)_V dT$$

$$dS = nR \frac{dV}{V}$$

$$\Delta S = \int_{V_1}^{V_2} nR \frac{dV}{V} = nR \ln \frac{V_2}{V_1}$$

(2) 次に体積 V が一定で、温度が T_1 から T_2 に変化する場合のエントロピー変化 ΔS を導出せよ。

$$\left(\frac{\partial U}{\partial T}\right)_V dT = TdS$$

$$dS = C_V \frac{dT}{T}$$

$$\Delta S = \int_{T_1}^{T_2} C_V \frac{dT}{T} = C_V \ln \frac{T_2}{T_1}$$

(3) 圧力 P が一定で、温度が T_1 から T_2 に変化する場合のエントロピー変化 ΔS を導出せよ。なお、 $H = U + PV$ の関係を使ってよい。

$$dH = -PdV + TdS + PdV + VdP = TdS$$

$$dS = \frac{dH}{T} = \left(\frac{\partial H}{\partial T}\right)_P \frac{dT}{T} = C_P \frac{dT}{T}$$

$$\Delta S = \int_{T_1}^{T_2} C_P \frac{dT}{T} = C_P \ln \frac{T_2}{T_1}$$

(4) 大気中で 290 K の水 1 mol が 300 K に変化する場合のエントロピー変化 ΔS を計算せよ。ただし、定容比熱は 70 J/(K · mol)、定圧比熱は 80 J/(K · mol)とし、温度依存性は無いものとする。対数の計算はしなくてよい。

$$\Delta S = \int_{T_1}^{T_2} C_P \frac{dT}{T} = C_P \ln \frac{T_2}{T_1} = 80 \ln \frac{300}{290} \quad [\text{J}/(\text{K} \cdot \text{mol})]$$

科目	プロセス系-1-B
----	-----------

受験番号

氏名

--

科目	プロセス系-1-B
----	-----------

--

※解答は、点線より下に記入すること。

(注：この用紙の問題への解答はこの面のみとし、裏面にはしないこと。)

問題 金属の凝固に関する以下の問いに答えよ。

- (1) 熔融金属が平衡凝固温度になった時、熔融金属中にエンブリオが形成する。エンブリオを半径 r の球とした場合の、エンブリオの成長に伴う系の自由エネルギー変化を ΔG とする。エンブリオが安定核の臨界サイズ r^* に達した際の極大値 ΔG_{max} を求めよ。なお、単位体積の液体金属が固体になる際に減少する体積自由エネルギーを ΔG_V 、エンブリオの単位面積あたりの表面エネルギーを σ_s とする。

$$\Delta G_{max} = \frac{16}{3} \pi \frac{\sigma_s^3}{\Delta G_V^2}$$

- (2) 体積自由エネルギーと系のエンタルピー及びエントロピー変化の間には次の関係がある。

$$\Delta G_V = \Delta H - T\Delta S$$

平衡凝固温度 T_s においては、 $\Delta G_V = 0$ である。以上の関係から、 ΔG_V と過冷度($T_s - T$)の関係を式で示せ。

$$\Delta G_V = \Delta H - T\Delta S = \Delta H - T \frac{\Delta H}{T_s} = \frac{\Delta H(T_s - T)}{T_s}$$

- (3) ΔG_{max} と過冷度($T_s - T$)の関係を上の問題の解答から導出し、その関係からエンブリオの成長しやすい条件を述べよ。

$$\Delta G_{max} = \frac{16}{3} \pi \frac{\sigma_s^3}{\Delta G_V^2} = \frac{16}{3} \pi \sigma_s^3 \left(\frac{T_s}{\Delta H(T_s - T)} \right)^2$$

過冷度が高いこと

プロセス系-2-A

【解答】

(1)

$$r = -\frac{d[A]}{dt} = \frac{d[B]}{dt} = k[A][B]$$

(2)

$$\frac{dx}{dt} = k(a-x)(b+x)$$

(3)

$$[A] = \frac{a+b}{2}$$

(4)

$$[A] = a \left[\frac{a+b}{a+b \exp\{(a+b)kt\}} \right]$$

プロセス系-2-B

【解答】

(1)

$$K = \frac{[A^+][B^-]}{[AB]}$$

(2)

$$K = \frac{\alpha^2 c}{1-\alpha}$$

(3)

α が 1 に近づくので、完全解離に近づく。

(4)

$\alpha = \sqrt{\frac{K}{c}}$ に近づくので、電離度は濃度の平方根に反比例するようになる。

(5)

$$K = \frac{\Lambda^2 c}{\Lambda^\infty (\Lambda^\infty - \Lambda)}$$